

ムクドリによる五本の指趾を持つ脊椎動物の捕食事例

白井 亮久

(生物科)

要 旨

2024年5月、武蔵学園（東京都練馬区）で、ムクドリが巣立ち雛に五本指の肢を持つ動物を給餌する様子を記録した。給餌された動物が何かを調べるために、構内のヤモリやネズミの肢の形態と比較した。特定はできなかったものの、スズメ目の小中型鳥類による陸上脊椎動物、特に哺乳類の捕食事例はそれほど多くないため、写真とともに報告する。

Keywords: 生き物地図, 給餌, 巣立ち雛, 都市鳥, ネズミ胎仔, ヤモリ

はじめに

ムクドリ *Spodiopsar cineraceus* は、都市に適応したスズメ目の野鳥である。武蔵学園（東京都練馬区）でも普通にみられ、毎年巣材集めや採餌行動、雛への給餌行動などが観察できる。2024年に、巣立ち雛への五本指を持つ脊椎動物の肉塊を給餌する様子を観察した。その肉塊について、構内で餌の候補となる小動物と形態を比較した。スズメ目の小中型鳥類による陸上脊椎動物の捕食は珍しいとされるため（植村, 2024 online）、報告する。

観察の概要

2024年5月31日12時12分、武蔵大学図書館と構内を流れる濯川の間の子せらぎ広場において、地面にいたムクドリ成鳥が肉塊片を咥える姿を確認した（図1）。何度か地面にたたきつけ、肉片を小さく千切ろうとする仕草をしたあと飛び立ち、近くのサクラの樹幹にいる巣立ち雛に給餌した（動画：<https://youtu.be/KvsojbB-epA>）。肉塊片を咥えた様子を撮影した写真を拡大すると、5本の指(趾)を持つ四肢の一部が見え、何らかの脊椎動物を給餌していたことが分かった（図1）。

ムクドリの下嘴の長さ(口角まで)を25mmとすると、指先を含む白い肢の長さは21mm程度（うち指と掌で6-7mm程度）、灰茶色を帯びた肉塊片の大きさは28.5mm程度と見積もられる。5本の指はどれも膨らみを帯び、指の切れ込みが明瞭で、ヒトの掌に似る形状をしている。肢は比較的太くがっしりとしていた。肢の付け根には突起部がみえ、この動物が哺乳類だとすると尿道口の可能性がある。



図 1. ムクドリが五指の動物の肉塊を啜る様子と巣立ち雛への給餌(動画) [2024/5/31]



図 2. A:ヤモリ(体長 55mm)の左後肢の 5 趾(8mm). B:ネズミ胎児(体長 40mm)の左後肢の 5 趾(4mm).
C・D:比較のためにヤモリとネズミ胎仔をムクドリの死体(全長 17cm, 下嘴長 25mm)と並べた.

ムクドリは何を食べていたか

後述するように、ムクドリは学園内あるいは周辺で繁殖しており、巣立ち雛が構内でみつかることもそれを裏付ける。給餌のための餌を構内で入手したとして、今回ムクドリが何を食べていたのかを検証する。

武蔵学園構内にいる五本指の生き物として、爬虫類のニホンヤモリ *Gekko japonicus* と哺乳類がいる。ヤモリは構内の木々の樹皮上で良くみられるため、図1の動物の肢と比較した。その結果、ヤモリは肢・掌の大きさ(8mm)や形の点では図1と良く似るものの(図2-C)、扁平で細い体、体表の鱗、特徴的な皺を持つ指先、指の根元が細まるという異なる特徴がみられ(図2-A)、肉塊の大きさや肢の細かい特徴の点では一致しなかった。

次に哺乳類について考える。学園構内では、ネズミ、タヌキ、ハクビシンなどが繁殖している(白井, 2024)。構内でのムクドリの餌としての入手のしやすさと肉塊の大きさから考えるとネズミ *Rattus sp.*の胎仔が第一に候補に挙がる。ネズミは前肢が4指、後肢が5趾である(飯島・土屋, 2015)。2024年11月8日に構内で見つかったネズミ胎仔(体長40mm, まだ目が開かない)の後左肢の趾と比較すると、ネズミは指先に爪を持ち、中足が長く全体として細長い(図2-B)。このことから、今回の肉塊片は大きさではネズミ胎仔と良く似るものの、指の形や手の大きさ(4mm)から考えるとネズミとも異なる可能性がある(図2-D)。

それ以外の候補として構内で繁殖しているホンダタヌキ *Nyctereutes viverrinus* やハクビシン *Paguma larvata* の胎仔などが考えられるが、比較する材料がないため検証はできなかった。なお、図1の肉塊はコウモリやモグラ胎仔とも異なる指趾をしている。

あるいは、死んだヤモリが水に浸かりふやけた状態など、通常の状態ではないものを見ていた可能性もある。いずれにせよ脊椎動物であることは間違いなさそうであるが、その特定までは至らなかった。

武蔵学園構内でのムクドリの食性や生態

ムクドリは雑食性で昆虫などの無脊椎動物や木の実や果実などを好む(山崎, 2011)。これまで構内では、鞘翅目幼虫(動画: https://youtu.be/Z0GrJT_XV_A) やサクラの実を食べる姿のほか、耕運した畑に飛来してミミズや昆虫などを採餌する姿、ナラ枯れのマスアタックでコナラに飛来したカシノナガキクイムシを捕食する姿を見たことはあるものの(図3, 4)、脊椎動物の捕食をみたのは初めてである。越川ほか(2022)は、千葉県津田沼で二年半にわたり埒下の糞とペリットを調べ、都市部でのムクドリの食性を明らかにしている。そこでは、植物の果実・種子と多くの昆虫類のほか小さな貝類が見つかるものの、動物の骨は確認されていない。植村(2024, online)によれば、小中型鳥類による陸上脊椎動物の捕食は珍しいことで、トカゲなどの爬虫類の例はあるが鳥類や哺乳類は稀とある。脊椎動

物の捕食は主に雛への給餌でみられるとあり、今回武蔵学園で観察された事例もそれに該当した。

ムクドリは地上徘徊性で、地面で餌を探す姿を良くみかける。構内で繁殖しているヤモリを食べる機会もあるだろう。また図 4A は、切り株の根元にあるネズミの巣穴をトラップカメラで撮影した際に、蛾とみられる鱗翅目成虫を啜ったムクドリが切り株の周囲を歩いている姿である。このように、なんらかのタイミングで巣穴の近くに来たムクドリが、哺乳類胎仔を食べる機会もあるのかもしれない。

ムクドリは建物の隙間などに、枯れ草や樹皮、ビニール紐を集めお椀状の巣を作り、繁殖する(小海途・和田, 2011)。武蔵学園構内でも、毎年ムクドリは繁殖しているとみられ、濯川周辺などで巣材を集める様子が観察できる(図 4E)。また構内の濯川で水浴びをしている姿もよく観察される(図 4F, 動画: <https://youtu.be/-cf8QPDqHi8>)。

おわりに

ムクドリは、都市部の駅前での集団場でニュースを騒がせることもある。学園内でもよく見かけ、生徒から「黄色い嘴の鳥がたくさん来ています」と教えてもらうこともある、身近な鳥である。良く知られている鳥であっても、食性や行動は、場所や時期など環境によって異なる。植村(2024, online)の記事には、『いつもと違う行動は「いつも」がわかっていてこそ気づきます』と記されている。これはとても大事な姿勢である。今回見つけたムクドリによる五本指の動物の巣立ち雛への給餌が、いつものことなのか、いつもと違うことなのかは、正直わからない。今後も「いつも」や「ありのまま」を記録することを心掛け、観察を続けたい。

なお、構内でのネズミ胎仔死体の拾得にあたり東京都環境局に「へい死鳥獣拾得届」を提出した。図 2 のネズミとヤモリを標本として保管した(それぞれ MB08_05, ME08_06)。

謝辞

図 2 で使用したネズミ胎仔死体は、濯川の一の橋の鉄棒付近のマツの樹の下に落ちていることを高校 3 年の赤池柊羽くん(99 期)から教えて頂いたものだ。それを標本として残すことで、今回比較することができた。同じく図 2 で使用した構内のニホンヤモリは、青木 慧くん・森井雅大くん(99 期)、片倉景道くん(103 期)ほか「やぎの研究」のメンバーに寒い中、採集にご協力頂いた。また、ムクドリが給餌していた小動物について、生物部の三木航介くん(102 期)にはヤモリの可能性について、井上茉優さん(日本野鳥の会)にはネズミの可能性について議論して頂いた。記してお礼申し上げる。

ムクドリによる五本の指趾を持つ脊椎動物の捕食事例



図 3. 武蔵ムクドリマップ(武蔵学園構内図に加筆した)



図 4. ムクドリの構内での様子(昆虫の捕食, 木の実の採食, 巣作りや水浴び行動)

引用文献

- 植村慎吾. 2024 (online). 論文紹介 スズメ目の鳥類による脊椎動物の捕食：既知の観察例のまとめの試み. バードリサーチニュース 2024年4月:3 論文紹介.
<https://db3.bird-research.jp/news/202404-no3/> (閲覧日：2024/11/04)
- 飯島正広・土屋公幸. 2015. リス・ネズミハンドブック. 文一総合出版, 東京. 88pp.
- 小海途銀次郎・和田 岳. 2011. 日本 鳥の巣図鑑：小海途銀次郎コレクション. 大阪市立自然史博物館叢書⑤. 東海大学出版会, 神奈川県. 373p.
- 越川重治・山崎秀雄・脇 司・館野光輝. 2022. 埤下の糞およびペリット分析によるムクドリ (*Spodiopsar cineraceus*) の食性に関する研究. *Urban Birds*: 39. 2–28.
- 白井亮久. 2024. 武蔵学園でカメラトラップにより初めて確認されたイタチとみられる小動物, および学園の哺乳類相. 武蔵高等学校中学校紀要 8: 129–142.
- 山崎恭弘. 2011. ムクドリ. *Bird Research News* 8(2): 4–5.

Akihisa SHIRAI (2024) A report of predation of a five-toed vertebrate by *Spodiopsar cineraceus*.
The Musashi Bulletin 8: 143–148.

<Abstract>

In May 2024, I observed a starling feeding its chick a five-toed vertebrate at the Musashi Academy Campus (Nerima-Ward, Tokyo, Japan). The vertebrate seemed to be a mammalian fetus or a gecko. Cases of mammalian predation by medium-sized Passeriformes birds are uncommon and thus, worthy of reporting.
